

UKIHA DENKEN ART MONTH

Studio NEXUS展

2023/11/28 - 12/28

開催場所：鏡田屋敷（うきは市指定文化財）

〒839-1321 福岡県うきは市吉井町若宮113-1

休館日：月曜日

開館時間：11:00～16:30

入場料：500円

※駐車場は市営の無料駐車場をご利用ください。



UKIHA DENKEN ART MONTH

UKIHA DENKEN ART MONTHは、「筑後吉井重要伝統的建造物群保存地区」（伝建地区）の中にある建物を活用し開催するアート企画です。

江戸時代、筑後吉井は城下町久留米と、天領日田を結ぶ豊後街道の宿場町として栄えただけでなく、先人に築かれた水路によって農業、酒造業、製麺業、精蠶などが発展し、様々なヒトやモノが行き交うことで豊かな暮らしを育んできました。

今回展示を行うStudio NEXUSは福岡と佐賀在住の作家5名で構成されています。芸術を通して「ヒト」と「モノ」と「コト」やそれぞれを結びつけることを目的として、2015年より国内外で展覧会、ワークショップ、スライドレクチャーなどを実施し、各地の作家との交流を行ってきました。

築160年の歴史を持つうきは市指定文化財「鏡田屋敷」に展示されたStudio NEXUSとその仲間の作家による作品を通して、この地からさらなるヒト、モノ、コトの繋がりが生まれると嬉しいです。

Studio NEXUS



石井 香久子 / Ishii Kakuko (Japan)

制作の基本姿勢としては、素材そのものにできるだけ作為的な操作を加えずその結果自然とあらわれる形、テクスチャによる微妙なニュアンスを楽しみたいと考えています。私にとっては素材との出会いが第一であり、今まで扱ってきたさまざまな素材のひとつの水引は結ぶという単純な作業を繰り返し作品を構成することにより素材のもつ新たな面を示し、そのものの本質を顕在化させます。結果として現れる作品のイメージは鑑賞者の感性に委ねられます。



栗田 融 / Kurita Toru (Japan)

私は人間の生活する環境に目を向けています。その環境は、様々な材料と構造によって成り立つ形体やそこで起こるあらゆる現象、それぞれの関係の結果であると考えています。そこで過ごす中、心を動かされる時があります。美しいと感じたのかもかもしれません。現在、私の最も大きな興味は、在るものの“状態”と“現象”であり、その探求の過程にいます。



くろき みつる / Kuroki Mitsuru (Japan)

特定の素材や様式にこだわらず、様々な表現を試みています。感覚的なドローイングから出発し、大体の方向が見えたら何らかの素材で実在化を試みます。モチーフやコンセプトに先導される計画的表現ではなく、自身の心の深層を探るあてどない実験です。この模索のプロセスを楽しみながら進むとき、出現する目的不明の物体の表面から、目に見えないポジティブなスピリットの気配が漂うようになるだろうと期待しているのです。



松尾 伊知郎 / Matsuo Ichiro (Japan)

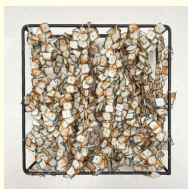
私は大地に吹く風、川や海に流れる水の動きや水面の揺らぎをイメージしながら、過去から現在、そして未来へと続く時間の流れを作品の形、色、表面の波形で表現しました。これら自然界の動きと時間の流れの中に立っている私が、未来に向かって動いていることを器や彫刻を通して表現出来ればと考えています。



文 芝瑛 / Moon Jiyoung (Korea)

私は、「境界を超えて生きる存在」に興味を持っています。「カビ」「粘菌」のような私たちの周囲のどこでも存在するが、普段はあまり意識していないようなモノです。これらは、よく見ると人間の生き方によく似ています。「孢子」の形で空間を浮遊してある場所にたどり着いてから自分の生きる領域を広めていきます。人も生まれ育った場所を離れて、自分の居場所を広めていく、その様子はとても似ていると思っています。

Guest Artist



ジャンニーヌ・ドゥ・レイメック / Jeannine De Raeymaecker (Belgium)

私はファイバーアートの基礎である反復的で連続的な作品に取り組むことを好み、独自の美学を確立しました。それは、熟練した手漉きの紙の美しさであり、しばしば小さくちぎりと、それを本質的なテキスタイルの傾斜を持つ層状の作品へと変化させます。私は様々な構造とテクスチャーで微妙に遊び、多くの場合、中間色と墨のタッチで表現します。私は工芸的な側面を自然なプロセスとしてとらえ、その瞑想の中で、私の構図の三次元的な性格と軽さが、時間の経過とともに次第に優勢になっていくのです。